

釈迦堂遺跡(笛吹市)

ここは中央高速の釈迦堂パーキングエリア/そこにこんな説明板が立っている



正面の高台に釈迦堂遺跡博物館が見える



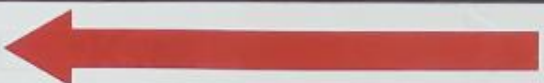
釈迦堂遺跡と釈迦堂遺跡博物館

釈迦堂遺跡は、中央自動車道の釈迦堂パーキングエリアの場所にありました。

遺跡の発掘調査は、日本道路公団より山梨県教育委員会に委託し

調査の結果、先土器時代から平安時代にいたる遺構 遺物が出土しました。なかでも縄文時代のもものは極めて豊富で、学術的価値も高く、全国のほぼ一割を占める数の一、一一六個体の土偶は、国の重要文化財に一括指定されました。

なお、発掘された土器・土偶などのすべての遺物は、下り線パーキングエリアに隣接した釈迦堂遺跡博物館に収蔵・展示されています。



平成元年四月

中日本高速道路(株)

パーキングエリアに車を置いて釈迦堂遺跡博物館へ歩いて行けるという/左手には石碑がある



釈迦堂遺跡

甲府盆地を一望する京戸川扇状地
上にあるこの遺跡は、昭和五十五年
から五十六年にかけて釈迦堂パーキ
ングエリア一帯の発掘調査が行われ
先土器時代の石器群、縄文時代早
前中期の集落、古墳、平安時代の
住居等が発見された。なかでも縄文
中期の大集落は、広場を中心に土壇
や住居群、土器捨場が同心円状に配
列される典型的な集落形態をもち
おびただしい土器の他に土偶が五百
点以上も出土したことが全国的に注
目された。

中部地方の縄文時代を代表する遺
跡として永くこの地にその名を留め
るものである。

ここからフェンスの扉を出て進み、陸橋を渡って行く



これが釈迦堂遺跡博物館



外装の改修工事中のようだ





本館の裏手に住居址の模型があるようだ



遊歩道を通して縄文の森公園にある住居址模型を見ることにする



三つの住居址模型(縄文時代の建物跡から推定した復元住宅)がある/これは釈迦堂三口神平地区の「中期中頃の住居址」



中期中頃の住居址

釈迦堂三口神平地区の中期中頃の住居址(SB-32)。620cm×520cmの楕円形。炉は五角形の石囲炉である。6本の柱は太い。出入口部にはしご受けの穴が見られる。



この「中期中頃の住居址」から前方に「前期初頭住居址」とその向こうの「中期の住居址」を見たところ



これが釈迦堂三口神平地区の「前期初頭住居址」



前期初頭住居址

釈迦堂三口神平地区の前期初頭の住居址(SB-102)。450cm×440cmのほぼ円形。炉は床をやや掘り窪めたもので、柱は円形に並んだ10～13本であると思われる。細い柱で簡単な上屋があったと思われる。



この「前期初頭住居址」から前方に「中期の住居址」を見たところ



これが釈迦堂三口神平地区の「中期の住居址」



中期の住居址

釈迦堂三口神平地区の中期前半の住居址(SB-73)。560cm×420cmの楕円形。炉は土器を埋める埋甕炉である。柱は深い穴から5本と思われる。



この「中期の住居址」から前方に「前期初頭住居址」とその向こうの「中期中頃の住居址」を見たところ



これが縄文の森公園全景/右手に説明板が立っている



甲府盆地の東部、御坂山系より流れ出た京戸川が、京戸川扇状地を形成し、釈迦堂はその中央部に位置する

京戸川扇状地

京戸川扇状地は、岩崎山と蜂城山の間を流れ下る京戸川が形成した扇状地形、他の扇状地との複合が少なく扇型に広がる扇状地形の典型として教科書等に紹介され広く知られている。扇状地には、釈迦堂遺跡の発掘調査で一万年前から人々の暮らしが始まり、縄文時代の早期末以後次第に大規模な集落が扇状地のいたるところに形成されるようになるが、稲作の普及とともに、扇端部に集落が移り、古墳時代は群集墳が

築かれ、平安時代以後再び開発が進み、生活の場となり、さらに江戸時代後期以後扇頂部の森が開墾され、今日にいたっている。現在は、勝沼町の上岩崎・下岩崎・藤井、一宮町の中尾・野呂・千米寺、石、などの葡萄、桃を中心とした果樹畑が一面を覆い尽くしている。

釈迦堂遺跡博物館



これは陸橋から見た釈迦堂遺跡一帯/車道の下、パーキングエリアの下全体が遺跡部分である



フェンスの扉を開け、パーキングエリアに戻る



参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%88%E8%BF%A6%E5%A0%82%E9%81%BA%E8%B7%A1%E7%BE%A4>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%88%E8%BF%A6%E5%A0%82%E9%81%BA%E8%B7%A1%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8>

<http://inoues.net/ruins/shakado.html>

<http://2nd.geocities.jp/txinui/kinnsei.html>

[http://homer.pro.tok2.com/sub7-7\(syakadou\).htm](http://homer.pro.tok2.com/sub7-7(syakadou).htm)

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~k-matsu/kofun1/syakado/syakado.htm>



参考資料



釈迦堂の土器・土製品



水煙文土器
(国重要文化財)
釈迦堂を
代表する中期
後半の土器



釣手土器(国重要文化財)
縄文時代のランプと
思われる



人体文土器(国重要文化財)
胴下半部に人の文様がある

縄文土器・土器を含む釈迦堂遺跡出土品5,599点が
国重要文化財に指定されています。



博物館周辺からの眺望 (4月初旬)

利用のご案内

事務所 〒405-0054 山梨県笛吹市一宮町千米寺764
山梨県笛吹市一宮町千米寺6甲州市野沼町跡井地内
(中央自動車道釈迦堂下PA専用階段から徒歩2分)
Tel (0553)47-3333 Fax (0553)47-3334

入館料 一般・大学生 200円 / 小中高生 100円

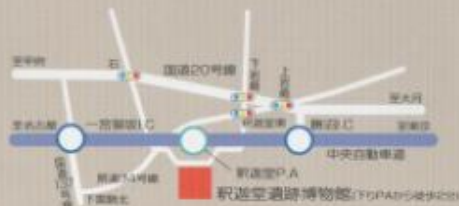
開館時間 午前9:00～午後5:00 (入館午後4:30迄)

休館日 火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土日を除く)

<http://www.eps4.comlink.ne.jp/~shakado>

※中央自動車道釈迦堂PA(上・下)より徒歩でお越し頂けます。

交通のご案内



組合立 釈迦堂遺跡博物館

—— 笛吹市・甲州市 ——



昭和63年11月26日開館

釈迦堂遺跡群は中央自動車道建設に
先立って調査された日本有数の縄文
遺跡です。この貴重な遺跡の存在を
後世に伝え、さらには学習の拠点と
なるよう、組合立の釈迦堂遺跡博物
館を開館いたしました。



THE SHAKADO MUSEUM
OF JOMON CULTURE



釈迦堂の地形と遺跡

釈迦堂遺跡群は昭和55年2月8日から翌56年11月15日まで、中央自動車道建設に先立って延べ2万人以上の人々が参加して発掘調査された。調査の結果、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の住居や墓、および多量の土器、石器などが発見された。特に縄文時代の資料は豊富で、調査時から全国的な注目を浴び、連日のように見学者が訪れた。



京戸川扇状地を望む



昭和56年の発掘状況(三ノ口神甲地区)



釈迦堂の土偶

釈迦堂では1,116個体の土偶が出土している。このうち前期のものが7個体、後期のものが1個体のほかはすべて中期のものである。

釈迦堂の土偶の特色はまずその数の多いこと、いろいろな形態のものがあること、その製作法がわかること、接合関係が多いことなど土偶の研究上欠かせない資料に恵まれていることである。



(国重要文化財)



X線で土偶を見ると、その作り方などの表面には見えない土偶の構造を知ることができる。

土偶には縄文人の髪形などを復元するヒントが隠されている。



釈迦堂ムラの生活

釈迦堂ムラでは、約2500年間に255軒の縄文住居があった。縄文時代は採集・狩猟・漁労の時代であり、自然に即した生活を送っていた。春から夏にかけては植物の芽や茎、秋には木の实や根茎の採取を、冬には狩猟を主な生業としていた。




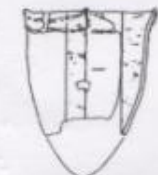




縄文人は土、石、骨、角、貝などを使って、優れた道具を作ってきた。食物を煮る土器、狩猟具の弓矢、土掘り具の打製石斧、伐採加工具の磨製石斧などがある。これらの道具には縄文人の知恵と技術が結集されている。






道具の復元

道具を作る家族の様子

(釈迦堂の考古学略年表)

今から前の年代	時代	主なできごと	主な遺物	
約 30,000年前	先土器時代 (旧石器時代)	ナウマンゾウ・オオツノシカの棲息 (平均気温が4℃低い) 釈迦堂に人々現われる。	 ナイフ形石器	
12,000年前	縄 文 時 代	土器作りはじまり 釈迦堂でもこの時期の尖頭器が発見されている。 貝塚がつくられ、土偶がえられる。	 早期の土器	
9,500年前		早期	釈迦堂に小さなムラが見られる。堅果類の利用さかんとする。	 前期の土器
6,100年前		前期	海進が進む (平均気温が2℃高い) 釈迦堂でもムラのまとまりが見られるようになる	 中期の土器
4,800年前		中期	中部地方に遺跡数が増大する。 釈迦堂ではいくつものムラが見られ、土偶のまつりが盛んとなる。	 中期の土器
4,000年前		後期	気候が寒冷化する。遺跡数の減少 釈迦堂では後期後半の遺物は見られなくなる。	 中期の土器
3,000年前			ムラが河川沿いに移動する。	

		晩期		後期の土器
2,000年前	弥生時代	前期	稲作文化西日本一帯に広がる。	
		中期	稲作文化山梨県にも波及する。	
		後期	釈迦堂でもこの時期の土器が1片発見されている。 甲府盆地に弥生遺跡が広がる。	
1,500年前	古墳時代	前期	古墳が築造されはじめる。 銚子塚・丸山塚がつくられる。	
		後期	横穴式石室が導入される。 群集墳・積石塚がつくられる。 千米寺・石古墳群がつくられる。釈迦堂1号墳	須恵器のはそう 須恵器の長頸壺 鉄鏃 鉄鏃
1,300年前	奈良時代		律令社会の発展 釈迦堂に方形土坑がつくられ鉄製人形 をつかった祭祀がおこなわれる。 国分寺・国分尼寺の建立	
1,000年前	平安時代		遺跡数が増大する。 馬の生産が盛んとなり、駒索がおこなわれる。 荘園の発達、武士の台頭、長寛の勅文 事件	

■ 釈迦堂遺跡の名前の由来

遺跡の名前は、その地名からとることが一般的です。釈迦堂遺跡のある場所には「字^{あざ}釈迦堂(しゃかどう)」という地名があります。どうして釈迦堂という地名がついたのか、記録には残されていませんので推測ですが、字釈迦堂に隣接する字釈迦原というところには、「釈迦堂の杜(もり)」と呼ばれる小さな杜がぽつんと残されています。その杜の中には釈迦堂と呼ばれる小さなお堂があり、地元の人に大切に守られています。そのお堂にはお釈迦様と石棒が並んで祀られています。石棒がどうして祀られているのかとても不思議ですが、隣の字三口神平(さんこうじんたいら)という地名と関係があると思います。この地は釈迦堂遺跡最大の縄文中期の集落が発見されたところです。

さてこの三口神平という地名は、「ミシャクジ」という古い地神に由来するといわれ、甲府盆地から長野県地域に「御社宮司・御社宮寺・御作神・山宮神・産宮神・三口神」などの字があてられ地名として多く残っています。この神の名前は、

「サク」神であり、縄文時代にまで遡ると考えられていますが、石棒や丸石、奇岩、大木などに降りるとされ、集落の特別の場所に石棒が立てられたり、丸石が祀られたものと思われます。釈迦堂の杜に石棒が祀られているのは、まさにその場所が「ミシャクジ」が祀られた聖なる場所だった可能性が高いと考えられます。だからこそ聖なる杜として残されたのでしょう。この「ミシャクジ」の「シャク」が転化して「シャカ」となり、「釈迦」の字があてられ、後に釈迦像と釈迦堂が安置されたものと考えられます。その背景には、遺跡の背後の山々に関連があると思います。京戸山(きょうどさん)と呼ばれ、かつて「京戸山千坊」といわれたように多くの山岳寺院が存在したと伝えられるところです。山中には寺や仏教に関する地名が残されています。したがって釈迦堂という地名も、もともと縄文時代に由来する「ミシャクジ」があり、いつしかこれらの山岳寺院と結びつき、「釈迦」に転化し釈迦堂になったものと考えられます。